

エコニュース さって



第 7 0 号
平成 29 年 6 月 28 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

平成 29 年度 第 1 回幸手市民環境講座 「中川探検ウォーク」～鳥が植えた木、ヒマラヤ桜～ 講師；NPO 法人とよあしはら 山本裕隆 氏

報告 坂本

平成 29 年 4 月 22 日（土）くもり、東公民館に集合した参加者 12 人は、9 時 40 分東公民館を出発し、中川沿いを遡り、「ふれあい散策路」を通り、宇和田公園に向かいました。途中、大きな木があり、その下には色々な木が茂っていました。

講師からの説明です。大きな木はエノキ（榎）といいます。下には、桜、桑、シュロ、野ブドウ、スイカズラなどの木があります。なぜ、エノキの下に色々な木が生えているのかというと、エノキの実を食べに来た鳥が、そこでフンをした。そのフンの中に桜や桑などの種が入っていた。その種が発芽し、成長したものです。いってみれば、鳥が種をまき、鳥が植えたものです。

説明を聞き、鳥のエサとなる実をつける木は、鳥を利用して子孫をいろいろな場所へ増やしている、したたかな植物だと思った。

程なく宇和田公園に到着、ここは日比谷公園や大宮公園の設計をした本多静六博士の設計で、大正 6 年（1917 年）につくられた公園です。去年は完成から 99 周年であったので、この探検ウォークの中でヒマラヤ桜の記念植樹を行いました。



ヒマラヤ桜の前で（座っている山本講師）



鳥の植えた木の説明を受ける参加者

ここで、講師からの説明です。ヒマラヤ桜は、ヒマラヤが起源のサクラで、日本のサクラの祖先と考えられています。日本のサクラは、厳冬期に落葉し、冬眠し、春に開花することで日本の風土に根付くことが出来た。ヒマラヤというと寒い雪山を連想するが、そうではなく、ヒマラヤ桜は北風の当たらない温暖な場所に分布しているのです。ソメイヨシノとの違いは、このサクラは 11 月頃にいっ

たん落葉し、その後花を咲かせて芽吹くとのことです。講師の話聞き、秋に咲くサクラの花の色は濃いのか？薄いのか？大きさは？花の数は？色々と疑問がでてきます。答えを出すために、秋には花見に来たくなりました。宇和田公園の土手の上で弁当を食べました。土手の上には通行を塞ぐように大きな記念碑がありました。庄内古川改修記念碑、昭和 3 年建立とあります。（かつて、杉戸町椿から下流の中川は庄内古川と呼ばれていた。）環境ネットのメンバーに

よると、かつて中川は、権現堂川として西から東へ、現在の幸手放水路より北のルートを通り江戸川に流れていた。昭和初期の改修工事で、宇和田公園において、南へ下り杉戸町へその流れを変えたのだという。宇和田公園の土手も現在は中川によって分断されているが、宇和田公園ができた大正 6 年には、連続していたのだという。

帰り道は、宇和田公園から東公民館まで土手を下るコースです。途中、土手から河川敷へ入り、草の上を歩きました。参加者の顔もほころんでいます。柔らかい草の上を歩くのは、「気持ちいい！」という声が聞こえます。午後 1 時 30 分、予定通り東公民館に到着しました。到着後講師から参加者にヒマラヤ桜の苗木のプレゼントがありました。皆さんは、大切に育てたいといっていました。今日はいろいろなことを学び、また、心なごむ中川探検ウォークでした。



草の上を歩くのは気持ちいい！

第 11 回ホウネンエビ観察会

日 時：平成 29 年 5 月 20 日（土）

報告：宮田

場 所：幸手市千塚地区（西公民館裏）

参加者：一般参加 8 名、スタッフ 5 名 計 13 名 事前下見（5 月 13 日）

観察日当日は晴天に恵まれ絶好の観察会日和となりました。参加者は西公民館の会議室に集合して、担当の福田より皆様に挨拶があり、司会の宮田からホウネンエビについて簡単な説明と探す時のアドバイスの後、澤村の先導でルートに沿って観察しました。



ホウネンエビはどこかな？

下見と同じ田んぼには水面に藻が発生していて静かに避けるとホウネンエビを確認する事が出来ました。下見の時より大きくなっているようでした。

スタッフの指差す場所でホウネンエビを発見すると、参加者はそれぞれ持ち寄ったビンやケースに網で

ホウネンエビをすくい歓声をあげていました。

昨年初めて参加した時にはなかなか見つけられなかったけれど、今年は自分で見つける事が出来た！と嬉しそうな笑顔は素敵でした。

西公民館近くの田んぼには小さいホウネンエビが確認出来、来週あたりには大きくなっているといいなあ～と思いました。陽射しのお蔭でホウネンエビの影でも探すことができました。公民館に戻り観察会の仕上げです、田んぼから採取してきたホウネンエビをスタッフの指導の下でスタンドルーペと双眼実体顕微鏡（20 倍）で観察しました。特に双眼実体顕微鏡でメスの赤茶色卵袋を観て粒状の卵が動いているのが確認できました。

目盛り付きミルソーに採取するとホウネンエビの大きさは、1 ～ 2.5 cm であることが分かりました。



泳ぐホウネンエビ

参加者の感想

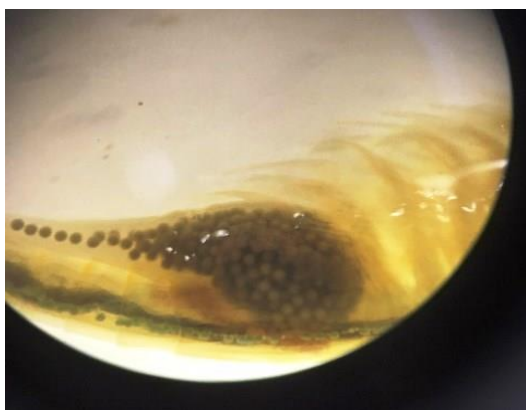
- ・秋になり稲穂が実る頃に田んぼを見るとハウネンエビを探した事を思い出します。
- ・初めて参加しましたが、とっても可愛くてはまりそうです。
- ・身近な田んぼでこの様な生き物がいる事を知り、自然を大切にしようと思った。
- ・ハウネンエビがこれからも毎年発生出来る様に環境を整えて行く事が大切です。
- ・ハウネンエビの他にオタマジャクシやヤゴなどの



熱心に観察する参加者の皆さん

生き物も確認出来て良かった。

- ・採取したハウネンエビを持ち帰り、土を入れ産卵出来る状態にして来年孵化に挑戦したい。



スマホで撮影 ハウネンエビの卵

◎今回の観察会では参加者が双眼実体顕微鏡のレンズを通し、スマホで撮影するという技を発見！かなり鮮明に卵の写真が撮れました。

「エコライフDAY2017」宣言式

報告 : 坂本

5月24日(水) 渡辺邦夫幸手市長出席のもと、「エコライフDAY2017」の宣言式が市長応接室で行われました。

「エコライフDAY」運動は、平成17年に始まり、今年で13年目に入りました。毎年県内全市町村が参加して行われるこの運動は、埼玉県的环境施策(地球温暖化防止＝温室効果ガス削減)の重要なテーマであります。幸手市でも7月2日(日)～9日(日)にチェックシートへの記入が行われ、回収し県への報告という手順になっています。



宣言式、幸手市長と幸手市民環境ネットのメンバー

2016年の参加者は、5722人と2015年よりも1113人少ない結果でした。

2016年の二酸化炭素の削減量は、4007kgと2015年よりも1200kg少ない結果でした。

2017年の目標は、参加者においては、2016年を上回る5722人以上となること。二酸化炭素の削減量も同じ

く 2016 年を上回る 4007kg 以上としました。確実に少しずつ伸ばして参りたいと考えております。

渡辺邦夫幸手市長からも宣言式において熱いメッセージをいただきましたので、紹介いたします。「この取組は、参加した方々が地球温暖化問題に関心を持ち、その防止のために行動を始めるきっかけになると期待しております。ちょっとした工夫で二酸化炭素の削減を体験できますので、一人でも多くのご参加をお願いいたします。」

「エコライフDAY」の運動を幸手市全体に繰り広げ、地球温暖化防止に積極的にかかわりたいと思っていますので、多くの皆さんに参加いただけるようお願い申し上げます。

第 144 回腐葉土と野菜づくりの会

報告：澤村

10月9日（日）午後3時開始、天気；うす曇り、出席人数；19名

今回の作業：ダイコンの間引き、熟成腐葉土の最後の頒布、エダマメの収穫、サツマイモの一部収穫、草取りなど。

ダイコンの間引きは、無農薬のため、先ず虫取りをしてから、一穴3粒の種播きから芽が出て生長した3本の苗の中元気な苗1本を残しました。その後、土寄せして、更に化成肥料（チッソ：リン：カリ＝8：8：8）を10粒程度、根から離して施肥し、軽く土を掛けました。

熟成腐葉土の最後の頒布をしましたが、桜の木の枝の下に位置する床には、春から夏にかけて葉桜になると共に腐葉土が桜の根の栄養分となりひげ根が張って腐葉土に侵入していました。次年度は、春の腐葉土切返し時にビニールシート等を敷いて侵入を防ぐことにしました。

エダマメの収穫は、今年も時期、天候と上手くマッチし、無農薬栽培のため少し虫が入りましたが房が食べ頃の膨らみで大収穫でした。各位、早速塩ゆでしてビールつまみにし、またご汁にして食べ、食べ切れないものは親戚や近所に差し上げたり、塩茹でして冷凍したと聞いています。

サツマイモは二畝程を試し掘りしました。今年は水平植えをしましたのでサイズが大きいイモもありましたが、全体的に中サイズでした。



大収穫の エダ（奥）マメ



塩ゆでしたエダマメ

【会員募集中！】環境保全活動と一緒にやっていただく方を募集しております。是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕★問合わせ先；久保田 修（代表）まで TEL 0480-42-1264

幸手の環境活動グループ：幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、倉松探検隊、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会（いきがい大学伊奈学園20期）